

認定特定非営利活動法人

だいじょうぶ

2024 年度 事業報告

(2025 年 第 20 回総会資料)

日時：2025 年 5 月 29 日（木）

11:00～12:30

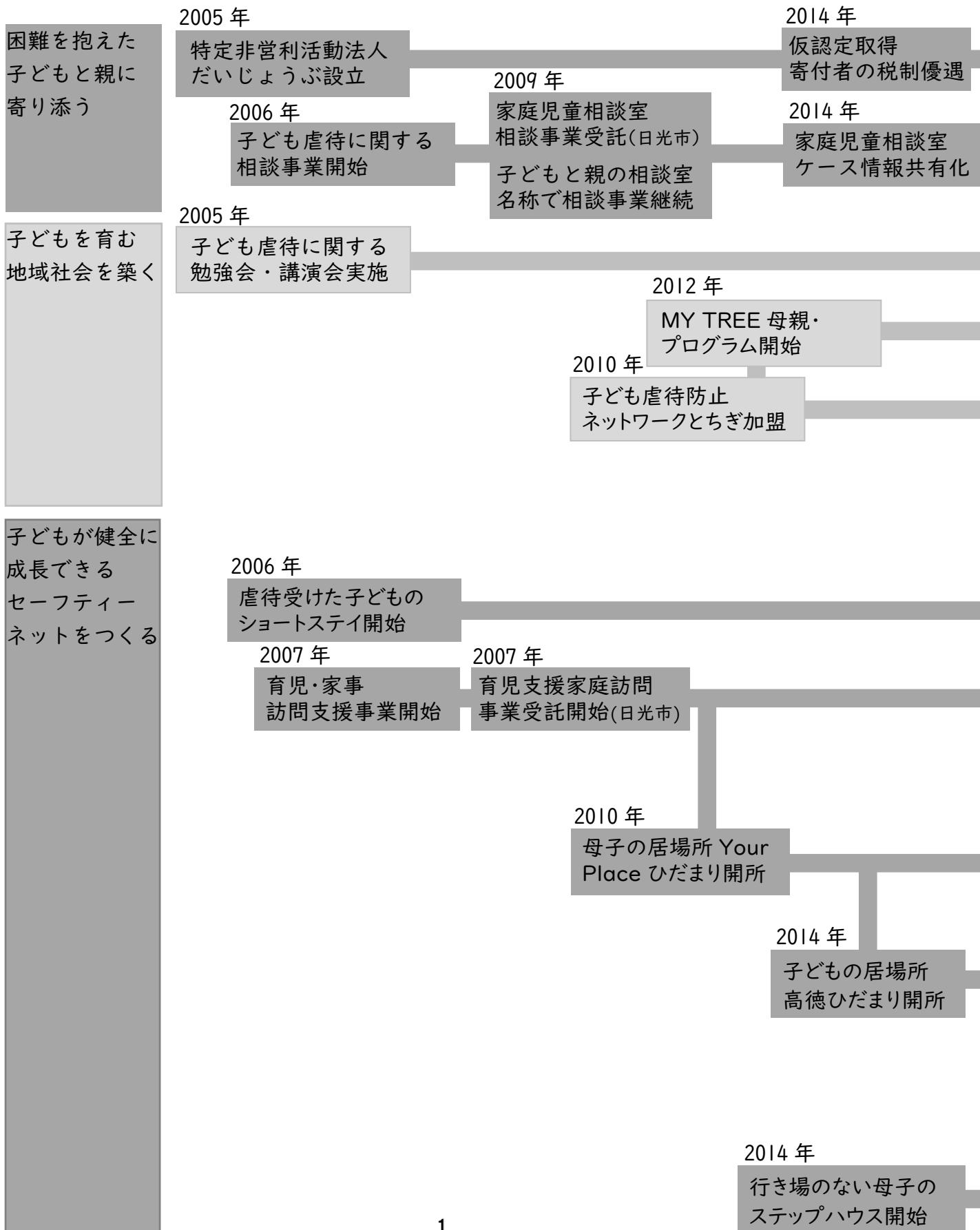
場所：子どもと親の相談室 和室

総会次第

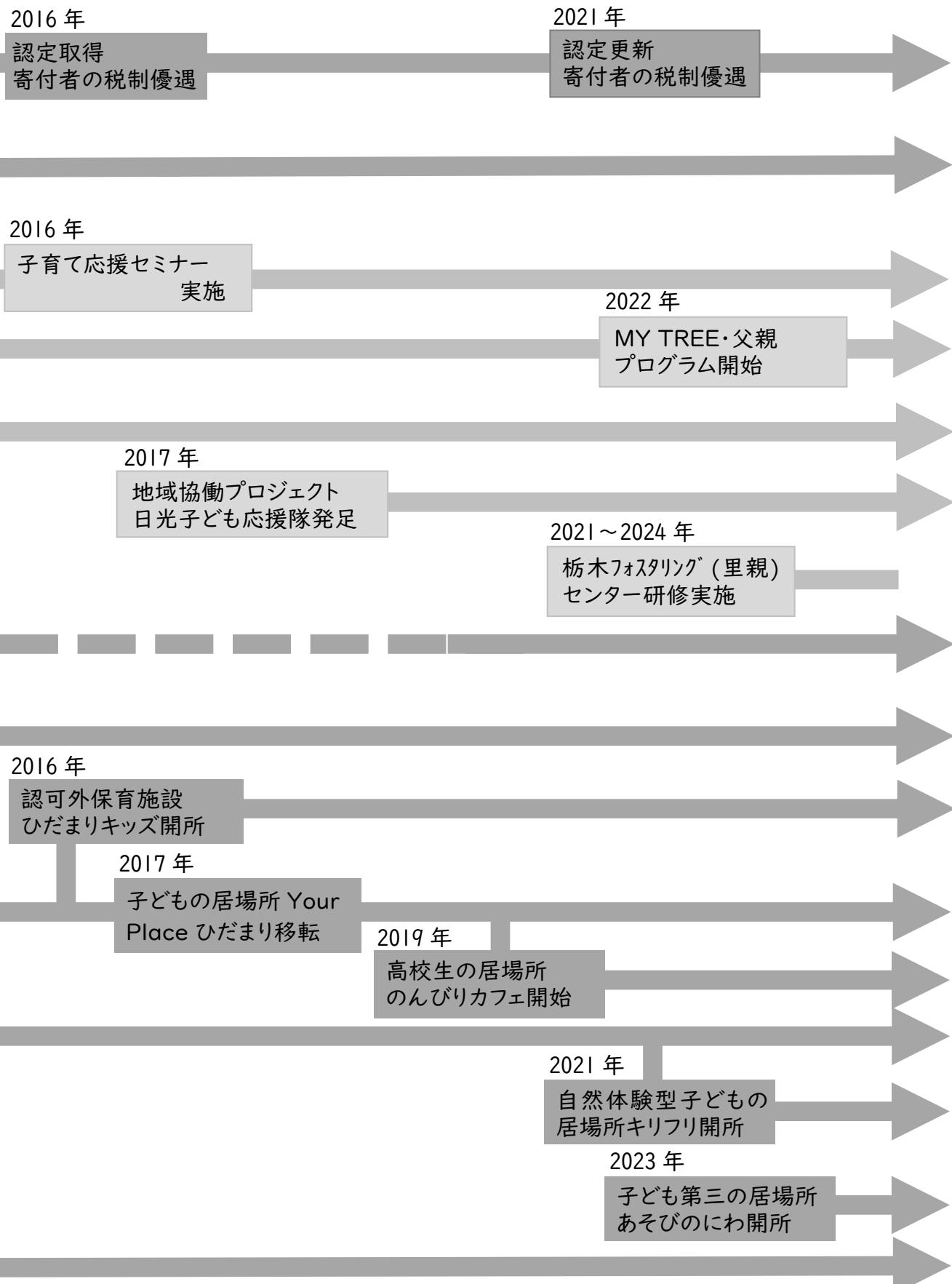
- | | | |
|-----------------|-----------------------|---------|
| 1、開会 | | |
| 2、理事長あいさつ | | |
| 3、議長選出 | | |
| 4、定足数の確認 | | |
| 5、書記及び議事録署名人の選出 | | |
| 6、審議事項 | | |
| 第 1 号議案 | 2024 年度事業報告について | P. 3~17 |
| 第 2 号議案 | 2024 年度決算報告及び監査報告について | P.18~24 |
| 第 3 号議案 | 2025 年度事業計画書（案）について | P.25~29 |
| 第 4 号議案 | 2025 年度予算書（案）について | P.30~32 |
| 第 5 号議案 | 役員変更について | P.33 |
| 7、議長解任 | | |
| 8、その他 | | |
| 9、閉会 | | |

一人でも多くの子どもが「生まれてきてよかった！」と実感できる地域をつくります。

特定非営利活動法人だいじょうぶは、虐待や貧困、親の病気など様々な理由で家で安心して暮らすことのできない子どもたちとその家族に寄り添い、支えています。すべての子どもたちが生まれや環境に左右されずに他者との関りの中で成長できるよう、出会う子どもたちのニーズに



合わせて活動を生み出してきました。現在では、日光市との協働で取り組む相談事業を中心に、それぞれのケースに合わせて様々な支援を組み合わせ提供しています。



全体の報告

支援の必要な子どもの居場所、全国に広がる

ひだまりをモデルに県内各地に広がった「子どもの居場所」ですが、日本財団が進める「子ども第三の居場所」が全国に 248 拠点にまで増えています。日本財団の働きかけもあって、こども家庭庁の「子どもの居場所支援臨時特例事業」など、助成終了後に「子どもの居場所」を市町村で運営するにあたり活用できる国の補助金も増えてきました。「全国に子どもの居場所を！」という、私たちの願いが実現しつつあります。

日本財団「子ども第三の居場所」助成事業「あそびのにわ」行政移管に向けて

「あそびのにわ」への日本財団からの助成があと 1 年で終了します。終了後の運営継続に向けた日光市との調整の結果、市は大幅に子どもの居場所予算を増額し、一か所の居場所あたり 900 万円弱の委託費をいただける見込みとなりました。これまで助成金でいただいていたあそびのにわの運営費を全額賄うことはできませんが、委託費に加え、寄付を一部充当することで、事業を継続する目途が付きました。事業の意義を理解し、財政課と交渉いただいた担当課に感謝したいと思います。

子どもの貧困、物価高騰

物価の高騰が続き、特に米価は約 2 倍と、子育て家庭の家計を圧迫しています。たくさんの企業や団体、個人有志の皆さまのご支援を得て、そしてサンタ de ランで託された支援者の皆さまからのご寄付を充当しながら、隔月の食材配布会を続けてきました。1 回の配布会で約 50 世帯の申し込みがあり、回を重ねるごとに増えています。せめて、子どもの食だけでも支えたい。孤立しがちな保護者に、応援する仲間が身近にいることを伝えたい。その願いから配布会を続けてきました。しかし、最近の状況の中では焼け石に水…と無力感を感じることもありました。国が根本的な対策をしてほしい、そう願っています。

支援性の財源の減少傾向

今年度、遺贈の大口寄付があり、年間 500 万円もの寄付を集めることができました。しかし、遺贈等大口の単発寄付を除くと、ここ数年、年間 300 万円前後で減少傾向が続いています。その背景に物価高騰による寄付動向の変化、子どもの居場所が増えたことで寄付先の選択肢が増えたこと等あるでしょうが、一時のテレビ出演等で得た知名度にあぐらをかき、新たな支援者募集の努力が不足していたのでは、と反省しています。

新たな寄付者募集の取り組みとして、「だいじょうぶ応援団」という形での企業協賛募集を検討準備してきました。

寄付という形での寄付者とのコミュニケーションを、子どもの課題解決に向けた活動ととらえ、取り組んでいます。

**「日光市家庭児童相談室」※日光市と協働
「子どもと親の相談室」※だいじょうぶ独自の相談室**

事業内容

虐待や貧困、親の病気など、様々な理由で家で安心して過ごせない子どもとその家族に寄り添って、家庭環境を把握し、必要な支援を組み立てる司令塔を担っています。

日光市の家庭児童相談室に、だいじょうぶからアドバイザー1人と相談員2人が加わり、市と協働で相談対応にあたっています。また、子どもの年齢等の理由で市の家庭児童相談室の対象外となるケースなどに対応する独自の相談室「子どもと親の相談室」も運営しています。両方が同じ建物内にあるため、情報の共有、支援依頼、支援内容の調整・報告がスムーズにできています。

ケース情報が完全共有化され、対等に援助方針を話し合い、具体的な支援につなげられる、行政とNPOの協働のモデルになるような事例だと自負しています。

事業報告

<家庭児童相談室>

相談件数は、2023年度の20,444件から17,762件と減少しました。そのうち、新規で受理された相談件数365件のうち、児童虐待件数は2023年度の109件から129件と増えています。その内、特定妊婦の受理件数は10件から18件と倍増しています。要支援児童数が105件から79件と減少しています。

<子どもと親の相談室>

平日時間外と土日祝日の相談件数は718件です。内訳は①身体的虐待62件、②心理的虐待13件、③ネグレクト45件、その他の相談598件となっています。

また、困窮した子育て家庭を対象に、SOSに応じて食材や日用品、学用品、衣類等を随時提供した他、隔月で食材等配布会を実施しました。(※実績詳細「その他の動き」参照)



実施日時	毎日 24 時間	従事者数	7人	事業費の金額	11,091,593
実施場所	日光市家庭児童相談室、子どもと親の相談室、従事者宅、等				
受益者数	延相談件数:17,762件 新規受理件数:365件 新規受理児童虐待件数:129件				

「ショートステイ事業」

事業内容

母親の入院や出産、不適切な養育などで、子どもが家庭で過ごすことが一時的に困難になった場合や、虐待を防ぐための母親の休息のため、お子さんを数日～1週間程度お泊まりで預かり、養育する事業です。

畠山理事長宅や地域の里親さんなど、里親の資格がある、家族に保育士がいるなど、一定の要件を満たした方（場所）に登録していただき、委託しています。また、職員が一緒に泊まり込むなどして子どもの居場所で受け入れる場合もあります。

事業報告

2024年度は、母親が病気療養のため入院することになった兄妹の1ケース2件の預かりがありました。昨年も預かりがあったケースで、里親宅になじんで安心して過ごすことができました。

4/24～5/4（11日間） 2人（17歳、11歳） 里親宅 母親の入院
10/29～12/26（59日間） 2人（17歳、11歳） 里親宅 母親の入院



実施日時	随時	従事者数	2人	事業費の金額	789,517
実施場所	里親宅				
受益者数	日光市内の保護が必要な子、延べ4人				

「講師派遣事業」、「食べて・遊んで・学んで育つ日光子ども応援隊」、等

事業内容

子ども虐待や子どもの貧困の課題を広く市民に伝え、子どもが大切にされる社会をつくるために、様々な事業を行っています。講師派遣や、研修会の実施、地域協働プロジェクトへの参画などです。

<子ども応援隊>

多様な主体による、子どもの貧困の課題解決に向けたプロジェクトです。地域の子どもたちが、生まれや環境によって自分を諦めることがないよう、その気になればチャレンジできる環境を整えるために、様々な事業を行っています。日光市の子どもの貧困の現状を「調べ」、「課題を見つけ」、「対策を練り」、「活動」しています。

参画主体:スマイル日光プロジェクト、S&S セミナー、NPO 法人和音、NPO 法人楽ッ子の会
キリフリ自然学校、個人有志、だいじょうぶ、等

事業報告（※講師派遣実績は「その他」のページに記載）

<子ども応援隊>

①朝カフェ:日光市立東中学校で、月 2 回、会議室を借りて、始業前に飲食ができるカフェを実施しました。今年も、年度始めに職員会議にて朝カフェの趣旨説明をさせていただき、より多くの先生方の理解を得ることができました。結果、生徒の利用者数の増加につながっています。また、先生方とのコミュニケーションをとることで、支援が必要な生徒の情報共有ができるようになりました。

藤原中学校からもカフェ実施の打診がありました。2 校でのカフェ実施に向け、運営費の確保のために助成金を申請し、従事者の呼びかけを行うなど、準備を進めました。

②子どもカフェ:ひかりの里での子どもカフェは休止中のままで。他で子どもの居場所づくりや子ども食堂開設の動きがあれば、その解説に向けて応援隊が手伝いに入ろうということになりました。



実施日時	随時	従事者数	6 人+応援隊メンバー	事業費の金額	30,000 (子育て応援セミナー)
実施場所	講師派遣:県内外各所	子ども応援隊:市内各所			
受益者数	講師派遣:全国、多数	子ども応援隊:朝カフェ生徒約 25 人/教員約 5 人			

栃木フォスタリングセンター研修

事業内容

子どもの社会的養護の家庭養育推進を目的に、新規里親を増やし、里親さんがよりよい里子への関わりを持てるようにと、研修の実施、ファシリテーターの派遣をしています。

- ・里親向け：フォスタリング・チェンジ・プログラム（FCP）へのファシリテーター派遣
- ・新規里親希望者向け：里親認定基礎・登録前研修の実施

2025年度からすべての里親研修を栃木フォスタリングセンターが運営実施することになりました。以降、FCPへのファシリテーター派遣を行うこととなります。

※栃木県が設置した「栃木フォスタリングセンター（TFC）」を運営する、一般社団法人とちぎ家庭養育推進協議会から同センターの研修事業の一部を受託し、実施しています。

※：フォスタリング・チェンジ・プログラム（FCP）：1999年イギリスで開発されたプログラム。子どもの長所に焦点を当て、子どもを育て、認めるための実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラム。

事業報告

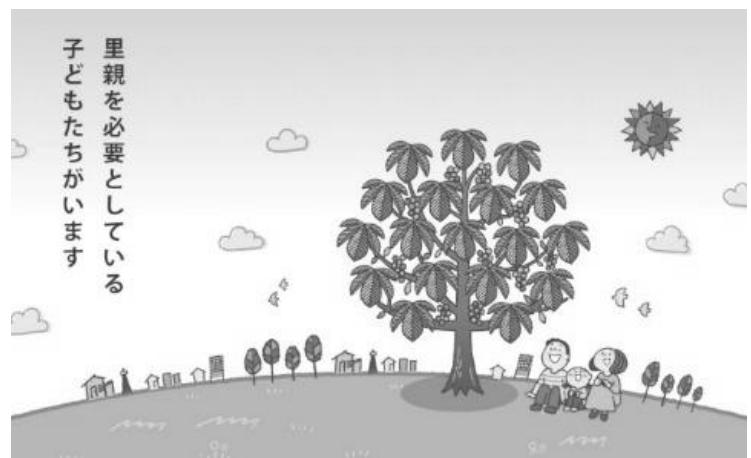
<フォスタリング・チェンジ・プログラム（FCP）>

2024年度から栃木フォスタリングセンターからの委託が無くなり、だいじょうぶとしては専門研修受講者の派遣をしています。

<新規里親希望者向け研修>

里親認定基礎研修（座学1日+施設実習1日）×年3回 4~5月、7月、11月

里親認定登録前研修（座学2日+施設実習2日）×年3回 5~6月、8~9月、12~1月



実施日時	4~1月	従事者数	4人	事業費の金額	1,963,903
実施場所	パルティ栃木男女共同参画センター、他				
受益者数	里親認定研修参加者（1回目14人+2回目11人+3回目15人）			合計	40人

「MY TREE 母親・プログラム」、「MY TREE 父親・プログラム」

事業内容

「子ども虐待とは、これまで人として尊重されなかった痛みや悲しみを怒りの形で子どもに爆発させている行動です（森田ゆり プログラム開発者）」

このプログラムは、「怒り」の裏側にある痛みや悲しみ、心の傷に目を向け、回復を促すプログラムです。自分自身を大切にできるようになると、子どもへの「怒り」の爆発が減っていきます。

2012 年度から毎年実施、2024 年度で 13 回目となります。プログラムの運営は、研修を積んだ専門スタッフが担当しています。

2022 年度、県内の MT 実施グループ「とちの木グループ」と協力して、これまでの母親プログラムに加えて、父親向けに再構成された「父親プログラム」も全国に先駆けて（大阪に次いで 2 か所目）実施しました。父親プログラムには、関東全域から、子どもへの暴力に悩む父親の参加がありました。

事業報告

ここまで課題となってきた従事者不足ですが、職員から新たに 1 人研修を受け専門スタッフになりました。チームのメンバーが増えましたが、積極的にコミュニケーションを取ることで、良いチームワークで実施できています。

参加者は、市町の相談室や児童相談所からの紹介が主になっています。今回、ご夫婦でそれぞれ母親プログラム、父親プログラムに参加された方が 2 組いらっしゃいました。相乗効果で、とても良い成果が得られたことが印象的でした。

<母親プログラム>

- ・日時: 9/13~12/20 (全 13 回講座) + 個別インテイク面接、中間面接、終了時面接 + 3/7 同窓会
- ・参加者数: 7 人
- ・参加者の声: 自分を認められることで、子どものあるがままを受け入れられるようになりました。心が落ち着いて、穏やかな気持ちで過ごせるようになりました。参加を決意したとき思い切って一步踏み出すことができて本当に良かった。

<父親プログラム>

- ・日時: 9/14~12/21 (全 13 回講座) + 個別インテイク面接、中間面接、終了時面接 + 3/8 同窓会
- ・参加者数: 4 人
- ・参加者の声: 毎週非常に支えになりました。自分が起こしたことを反省し、未来に妻や子どもが幸せになれるよう支えることがこれから私の課題です。

実施日時	9/13~3/8	従事者数	5 人	事業費の金額	2,031,091
実施場所	パルティとちぎ男女共同参画センター				
受益者数	子どもへの虐待に至ってしまった母親 7 人、父親 4 人				

子育てヘルパー 「育児・家事 訪問支援事業」

事業内容

支援の必要なご家庭を訪問し、育児や家事のお手伝いをしたり、病院や学校、役所への送迎・同行をしたりします。母親の休息のために乳幼児の託児も行っています。

自主的な支援の中で、地域の床屋さんのご厚意で、支援で関わる子どもたちの散髪を無料でやっていただけています。

事業報告

託児については、主にひだまりキッズで行っています。単発のひだまりキッズ利用が訪問支援事業の託児実績になっています。家事支援については、家の掃除や食事届けが目立ちました。同行支援については、保健師や相談員の同行により、私たちの同行が減りました。支援の中心は、送迎支援となっています。

<委託事業内訳>

・託児	45 件
・家事支援	14 件
・同行支援	17 件
・送迎支援	204 件
合計………280 件	

<自主事業内訳>

・託児	2 件	・居場所	10 件
・家事支援	4 件	・散髪支援	10 件
・同行支援	1 件	・その他支援	15 件
・送迎支援	1 件		
合計………43 件			



実施日時	ニーズに応じ随時	従事者数	7人	事業費の金額	1,381,847
実施場所	Your Place ひだまり、高徳ひだまり、ひだまりキッズ、ニーズに応じ市内各所				
受益者数	日光市内の親子 延べ 323 人(件)				

支援が必要な乳幼児の認可外保育施設 「ひだまりキッズ」

事業内容

育児疲れや、育児不安等で子どもの養育がままならないケース等、支援が必要な乳幼児を、保育園入園までの間一時的に預かり保育しています。また、母親のレスパイトのために、所属があるお子さんについても預かり、お風呂に入れたり夕食を提供し自宅に送る、夕方の保育も行っています。

スキンシップや声掛け、受け止めを大切に、母親のように、おばあちゃんのように保育しています。居場所を求めている母親も多いことから、母子での利用も可能な限り受け入れています。

平日 9時～17時開所（土日祝日は休み）

事業報告

これまで通り、子どもたちが安心して過ごせるよう心掛けました。中でも、特性のある子の受け入れにあたって、専門家をお招きしてアドバイスをもらいながら対応し、その子も安心して過ごせたことが大きな経験となりました。その子の幼稚園入園に当たって、引継ぎ等を行い、幼稚園との連携が進みました。

全体として、ケースごとにご家庭の状況に合わせて、支援を行うことができました。

・開所日数: 211日

・利用者数: 乳幼児 7人 延べ 333人 1.6人/日利用

 母親 2人 延べ 3人

・職員 10人、協力者2人、ボランティア1人 が延べ 480人従事 2.3人/日従事

ひだまりキッズ月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
キッズ開所	19	21	16	20	15	14	18	17	19	17	18	17	211
キッズ利用	14	18	25	29	18	21	43	37	38	28	29	33	333



実施日時	平日週5日	従事者数	10人+3人	事業費の金額	6,643,741
実施場所	ひだまりキッズ、近隣の公園等				
受益者数	日光市在住の乳幼児 7人 延べ 333人(件)とその母親 2人 延べ 3人(件)				

～地域にあるもう一つの家～ 子どもの居場所「ひだまり」

Your Placeひだまり / 高徳ひだまり / 子どもの居場所キリフリ

事業内容

家庭支援に入れない子どもを、家に入れないなら連れ出そう!と発想し、つくりました。

家で安心して過ごせない子を、放課後学校や家にお迎えに行き居場所に連れてきます。居場所では、皆で遊び、食卓を囲み、必要に応じて入浴や洗濯もして、あとは寝るだけにして家に送ります。子どもにとって、「もう一つの家」、「おばあちゃんち」のように、優しく受け止めてもらえる、安心して過ごせる居場所であることを何より優先しています。ひだまりでは、日常の生活支援だけではなく、長期休みや休日のイベント開催、外遊びへの連れ出し等、不足しがちな体験を補う事業も行っています。

栃木県が、ひだまりをモデルに、子どもの居場所づくりを市町に呼びかけ、宇都宮市や小山市等に計14か所(私たちの4か所を含む)の子どもの居場所が立ち上がっています。

事業報告

これまで、Your Place ひだまりは集団、高徳は個別対応、キリフリは自然遊びと、子どもの特徴に合わせて利用場所を割り振っていました。今年は、個別で対応していた子の成長と、他の子とも遊びたいという希望から、Your Place・高徳とも集団での生活・遊びの提供に変えてきました。また、保護後、家庭戻しとなった兄弟姉妹の預かりが増えました。そのため、兄弟間、子ども同士のぶつかりも生まれ、職員のかかわり方が問われる状況になりました。他の子とぶつかりがちな子は外遊びに連れ出して遅れてひだまりに入る等、工夫して対応にあたりました。キリフリでは、これまで通り、外遊びや自然体験を重視した運営を行いました。

運営面では、職員の高齢化が進んでおり、子どもと元気に遊べる職員が限られてきています。口下手な子どもは、大人と一緒に思いっきり遊んでもらうことで、その大人を信頼していくと感じています。子どもの元気を受け止められるよう、世代交代に向けて、求人、仕事の割り振りに着手した1年でした。

Your Place ひだまり 月別の利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	20	23	24	18	19	26	20	21	20	22	23	258
延利用者数	47	47	48	47	35	39	54	30	50	47	57	45	546

高徳ひだまり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	6	4	8	10	7	8	9	10	9	9	9	12	101
延利用者数	13	11	13	21	15	17	15	21	25	20	22	25	218

子どもの居場所キリフリ（あそびのにわの実績の内、要支援児童数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	19	20	17	11	17	20	15	14	12	14	16	195
延利用者数	41	40	39	41	33	29	50	42	33	25	28	36	437
3か所計	101	98	100	109	83	85	119	93	108	92	107	106	1201

子どもたちの様子



<Your Place ひだまり>

- ・258日開所 延べ546人利用 2.1人/日利用
- ・職員18人が延べ707人従事 2.7人/日従事
- ・ボランティア5人が延べ37人従事

<高徳ひだまり>

- ・101日開所 延べ218人利用 2.2人/日利用
- ・職員13人が延べ241人従事 2.4人/日従事
- ・ボランティア1人が延べ8人従事

<子どもの居場所キリフリ>

- ・195日開所 延べ437人利用 2.2人/日利用
- ・職員はあそびのにわと兼任しています。

<ひだまりの主なイベント>

- ・8/1 夏祭り 日光市生きがいセンターにて
(初のひだまり利用の親子向けイベント)
- ・8/19~23 ブルーベリー狩り体験
福田様農地にて
- ・12/12 ひだまりクリスマス会
日光市生きがいセンターにて
(MDRT 助成事業)

実施日時	平日+随時土日祝	従事者数	職員21人/ボランティア16人
事業費の金額	Your Place:6,438,370 高徳:6,429,431 キリフリ:2,749,667		
実施場所	Your Place ひだまり、高徳ひだまり、子どもの居場所キリフリ、市内各所		
受益者数	日光市内在住の支援が必要な子ども 30人/延べ1,201人(件)		

子ども第三の居場所「あそびのにわ」 (日本財団助成事業)

事業内容

子ども第三の居場所は、子どもたちが安心して過ごせる環境で、自己肯定感、社会性、生活習慣、学習習慣など、自立に向けて生き抜く力を育むための居場所です。

「放課後の時間遊びで満たす」をスローガンに、川や山などに毎日のように出かけていき、暗くなるまで自然の中で遊びなどの体験活動を提供した。毎日手作りの夕食を提供する他、必要な子には入浴や洗濯の支援も行っています。



事業報告

一部の学校ですが、放課後の外遊びのニーズを満たせるという認識が広がり、利用者数が増えていきます。そのため要対協ケースにはあがらないひとり親家庭につながることができます。

定期的に利用している子どもたちは、様々な遊びを通して「できるようになった！」体験を積み重ねています。そのため、学校や家庭で落ち着いてきた、と保護者から報告を受けています。

12月にはサンタ de ランに関連して、あそびのにわを利用する子どもとその保護者を対象に、チャリティーウォークイベントを実施、市民に対して「子どもの貧困課題」、「子どもの居場所」をアピールすることができました。

来年度で助成期間が終わるため、以降のあそびのにわ運営継続に向けて、日光市と予算等の調整を行ってきました。子どもの居場所委託費を増額していただける見込みとなっています。

あそびのにわ月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	21	20	21	11	17	22	20	19	18	18	19	227
延利用者数	102	105	114	117	80	81	117	127	100	111	120	109	1283



実施日時	月～金曜日、他 227日開所	従事者数	職員15人 ボランティア11人	事業費の金額	14,257,299
実施場所	子どもの居場所キリフリ内交流スペース、霧降高原のフィールド				
受益者数	日光市内在住の子ども30人 延べ1283人利用				

生活困窮者自立支援法に基づく子どもの学習支援事業（日光市委託） 高校生の中退防止事業「のんびりカフェ」・社会的な居場所づくり事業

事業内容

<高校生の中退防止事業「のんびりカフェ」>

日光市在住及び日光市の高校に通う高校生&高校生世代の若者を対象としています。

高校中退を防止し、高校卒業&就労等、社会的自立を目指す事業です。土曜日開催の居場所「のんびりカフェ」と、カフェ等で培った人間関係をもとに相談対応や食材提供等を行う訪問支援を行っています。カフェでは、スマホゲームをしたり、ボードゲームをしたり、卓球をしたりと、好きなことをして過ごします。希望に応じ、学校のことや人間関係、仕事、生活等の相談に乗っています。

<社会的な居場所づくり事業> ※子どもの居場所事業の実績に含まれています。

事業報告

子どもの居場所ひだまりを卒業した高校生、高校を卒業した若者が利用の中心になっています。第2、4 土曜日は中学生も参加OKの日としていますが、中学生の利用は少ないです。12月からは、利用を増やすため、子どもたちの希望を聞きながら、毎月1回ほどイベントを開催しました。

<イベント>12月 クリスマス／1月 職員の料理対決／2月 ミニ四駆をつくろう／3月 ミニ四駆大会

高校卒業後、進学したり、就職したりして本来カフェを卒業するはずの子の利用が増え、カフェのあり方を再検討する必要を感じています。来年以降のカフェの大きな課題となっています。

子ども同士の相性の合う、合わないがあり、中学生の子たちの参加が減りました。

結果、延べ利用人数が3割減っています。一方で、訪問支援や食材提供など、カフェを利用しない高校生への関わりもカウントしたため、訪問支援等が約4倍に増えています。



実施日時	第1～4 土曜、他	従事者数	職員 5人	事業費の金額	3,104,814
実施場所	Your Place ひだまり、利用者宅等				
受益者数	日光市内在住の高校生等 26人 カフェ:延べ170人 訪問支援等:延べ127人(件)				

生活困窮者自立支援法に基づく子どもの学習支援事業（日光市委託） 学力向上を図る学習支援事業

事業内容

生活困窮家庭の中学校2・3年生を対象とした、無料の学習支援事業です。

以前、ひだまりの子の受験勉強にボランタリーに関わってくださっていたS&Sセミナーに運営をお願いしています。遠方等で通えない子には、Zoomを活用し、リモートで勉強を教えています。

事業報告

＜中学2年生＞ 対象者：19人が登録、19人利用 週1回開催で延べ391人が利用

＜中学3年生＞ 対象者：24人が登録、23人利用 週3回開催で延べ745人が利用

来年度から、学力向上を図る学習支援事業については、だいじょうぶを通さずに、市と公募事業者との契約で実施することになりました。

実施日時	中2:金曜日 中3:水・土曜日、木・土曜日
従事者	S&Sセミナー
事業費の金額	12,861,916
実施場所	非公開（日光市内）
受益者数	日光市内在住 要保護・準要保護世帯の中学生等 2年生人・3年生人



母子の自立に向けた「ステップハウス」

事業内容

離婚や生活困窮、退職で寮を出されたりして行き場を失った母子に、3ヶ月を目標に無料で住まいを提供しています。利用中に、APの敷礼金等自立に向け必要な資金を貯めていただきます。

事業報告 ※利用がありませんでした。

実施日時		従事者数		事業費の金額	0
実施場所					
受益者数					

その他の動き

事業内容	実施内容
① 総会、理事会の開催	・総会 5月26日 第19回通常総会 ・理事会 5月22日 第1回理事会(総会議案) 11月27日 第2回理事会(上半期の報告、下半期の計画、他)
② 通信の発行	・6月20日 「だいじょうぶ通信44号」あそびのにわ・キッズの様子、他 ・9月30日 「だいじょうぶ通信45号」ひだまり夏祭り、ひだまりの様子、他 ・2月 1日 「だいじょうぶ通信46号」ひだまり・あそびのにわ・キッズの様子、他
③ 講演会、研修への参加	・5月18~20日 MY TREE 全国フォーラムin大阪 ・6月16日 MY TREE 総会&研修 ・6月22日 MY TREE アサーティブとコーチングのハイレベル研修 ・7月18日 子どもの居場所担い手育成事業研修「児童福祉の動向について」 ・9月24日 子どもの居場所担い手育成事業研修「なぜ今子どもの居場所か」 ・11月17日 子どもの虐待をなくす県民の集い 「虐待死をなくすために~切れ目ない支援のあり方を考える」 ・11月28日 子どもの居場所担い手育成事業研修 「地域における社会的養育の拠点としての『子どもの居場所』について」 ・1月 7日 職員全体研修「結愛へ目黒区虐待死事件母の獄中手記」を読む ・1月 14日 子どもの居場所担い手育成事業研修「ラップアラウンドについて」 ・3月 3日 児童虐待防止セミナー「トラウマ インフォームド ケア セミナー」 ・3月12日 職員全体研修「子どもの発達と関わり」roots4
④ 他団体との交流	・2月 20日 居場所交流研修会 高徳ひだまり(たんぽぽ) ・3月 6日 居場所交流研修会 あそびのにわ(ひより、たんぽぽ、ふるさと)
⑤ 講座等実施	※とちぎフォスタリングセンターの研修(詳細は7ページ)
⑥ 講師派遣	・7月 1~2日 日光明峰高校 日光学研修&フィールドワーク ・7月 14日 さくら市民生委員主催講演会「支援の必要な子どもの居場所」 ・8月 31日 とちぎ子どもサポートフォーラム・トークセッション「居場所って何だ?」 ・11月 1日 上三川町人権カレッジ講演会 ・11月 5日 上都賀教育事務所主宰研修会 ・1月 10日 鹿沼市人権擁護員研修会 ・2月 6日 日光市地域学校協働活動研修会 ・2月 15日 栃木県学習支援センター養成講座 ・2月 16日 高根沢町こころの探検講演会……他、全16件
⑦ 見学受入	・5月 29日 日光市社会福祉課職員 ・6月 20日 青森県弘前市みどり保育園職員 ・1月 9日 小山市職員 ・1月 14日 ラップアラウンド・アプローチの講師2名 ・1月 22日 埼玉県一般社団法人あんど職員 ・2月 14、18、21、25、28日 きずな施設職員研修……他、全14件
⑧ 資金集め	・12月 15日 子どもの貧困撃退♡チャリティー サンタ de ラン&クリーン参画

事 業 内 容	実 施 内 容
⑨ メディア	・特になし
⑩ 取材	・10月 2日 日光市民活動支援センター広報誌取材 ・12月 4日 読売新聞 条氏 取材 ・3月 25日 国連 NGO JACE 取材
⑪ 各種委員会等への参加	・日光市子どもの権利委員会委員 ・日光市福祉のまちづくり推進委員会今市地区委員
⑫ 物資の寄贈(受け入れ)	○育児支援家庭、子どもの居場所ひだまり、食材配布会宛てに、食品や日用品などの生活物資を寄贈いただいた。件数は325件(99か所より)にのぼる。 <物資提供をいただいた皆様(敬称略)> ・個人有志の皆様 ・団体:7&i ヨークベニマル ヨークベニマル細谷店 金谷ホテルベーカリー 農産直売所にこり いちご香房なかやま フードバンク日光 だいやの森旬菜館 JA かみつが 大沢屋製菓 かんだふあーむ カーブス日光ランドマーク
⑬ 物資の支援(提供)	○生活困窮家庭への物資支援実績(延べ984件支援した。) ひだまりを利用しているなどだいじょうぶで関わる家庭だけではなく、物価高騰などの影響で困窮する家庭への支援が増えてきている。特に、子育て中の家庭向けに広く食材の配布会を実施した。 <配布会> ・食材セット配布会 隔月第4土曜日に実施(全6回) 119家庭 307件(お米1,162kg) <配布会以外> ・SOSに応じて等、随時提供 89家庭 677件 <内訳> ・乾麺や調味料、缶詰、レトルトなどの食品 219件 ・お米 26件 150kg ・冷凍パン 250件 ・衣類 29件 ・育児用品 95件(ミルクおむつ含む) ・入学&進学準備品(学用品・制服&ジャージ) 28件 ・生理用品 11件 ・その他 19件
⑭ その他	・特になし

※その他の事業「バザー」 子どもを支える～だいじょうぶバザー実行委員会が実施